

共同体感覚の測定について

丸尾明美 (神奈川)・中島弘徳 (岡山)

要旨

キーワード :

1. はじめに

アドラーが唱えた「共同体感覚」とは、アドラー心理学独自の概念であり、「間違いなく彼の中心的理論概念となるもの」(Ansbacher & Ansbacher, 1956)である。しかしながら、その概念は最も理解が難しい概念であると言われ、狭義では「他者に対する興味と関心」(Crandall, 1981)、広義では「永遠に続くと考えられる共同体を得ようと努力することへの興味や感情」(Adler, 1956)、さらにアンスバッハーによれば、「(共同体感覚とは、)他者との一体感を基本として、自己への興味を超越した共同体や人の幸福への純粋な関心を持つということである」(Ansbacher, 1991)などと定義されている。

これまで、数々の研究者たちが共同体感覚についての考察や研究を行っており、共同体感覚は以下のようなものであると考えられている。

「アドラーは、共同体感覚が個人の社会への適応性や、社会の幸福との重要で密接な関係を持っているものと考えていた」(Leak, 2004)

「アドラーは共同体感覚を生まれつきの素質ではあるが、意識的に発達させられる知的な機能であるとみていた」(Manaster & Corsini, 1982)

「それ(共同体感覚)は社会的関心が高い家族、共同体、社会の中で育ったり、暮らしたりしているうちに発達する生来の素質なのかもしれない」(Manaster, Cemalcilar, Knill, 2003)

そうであるならば、共同体感覚は、育つ環境、暮らす環境など、何らかの方法によって発達させることができるのかもしれない。そこで、この共同体感覚を明確に測定しようという試みが、1973 年頃からされるようになり、数種類の測定用質問紙法が開発された。本稿では、過去に行われた研究についてまとめ、また実際に日本語版の質問紙法によって共同体感覚の測定調査を実施した結果をまとめている。

2. 共同体感覚のこれまでの研究

共同体感覚の測定とは、共同体感覚を構成していると考えられる性格特性である

責任感、誠実さ、自立心、成熟 (Zarski, Bubenzer & West, 1981)

援助的、共有、勇気づけ行動 (Kaplan, 1986)

共感的理解 (Adler, 1956)

などの特性を質問紙法によって数値化し、測定するものである。

アドラー心理学の究極的な目標は「共同体感覚の育成」にあるので、こうした測定結果を用いることによって、以下のような活用法を考えることができる。

①臨床の効果判定

カウンセリングなどの前後にそれぞれ測定をすることで、カウンセリングの効果を判定することができる。

②援助(教育)目標を立てやすくなる

測定結果、どの項目の点数が低いかなどを見ることで、どのような点に対して援助(教育)をしていけばよいか、目標を立てやすくなる。

③教育的努力を払うべき適時性を発見できる

異なる年代ごとに測定を行って、年代ごとの項目別結果の傾向がわかれば、適切な年代に対して適切な援助(教育)目標を立てることができる。

①の応用として、ワークショップや自助グループの活動などでも、その前後で共同体感覚がどのように変化したかを調べることも可能である。

【主な質問紙法】

共同体感覚の測定のために開発された質問紙法の主なものには、以下の3つがある。

そして、それらを使って1973年-2008年の間に、複数の質問紙法を同時に使っているものを含め43の研究が行われている。(それぞれの研究の概要は添付の表を参照：参照1)

1. SII : The Social Interest Index / 1973 / Greever, Tseng, Friedland

2. SSSI : The Sulliman Scale of Social Interest / 1973 / Sulliman

3. SIS : The Social Interest Scale / 1975 / Crandall

これらの過去の研究について、以下に概要をまとめる。

1. SII : The Social Interest Index / 1973 / Greever, Tseng, Friedland

SII は、32 の質問に対する 5 件法による回答から共同体感覚の測定を行っている。

SII の結果は、元気さ、結婚生活への適応、内面的知覚、優越感、内的な方向性、自己の重要性、対人接触、自己受容、自発性、自己実現性、相乗効果、自己主張の受容、天性などに対して肯定的に関連し、憂鬱、怒り、情動障害、自主性、援助に対して否定的に関連している。その結果、共同体感覚値が高い人は、低い人に比べ、人生へのより良い適応ができ、より幸福感があり、素晴らしいユーモアセンスを見せていると考えられる。

SII を使って、これまで行われた研究には以下のようなものがある。(21 研究)

<高校生・大学生対象>

性格、ストレス、憂鬱感、幸福感、ユーモア、恋愛傾向、友人・親戚関係の深さ、生活の変化などと共同体感覚の相関関係、また男女による違いなど

<成人対象> (308 名の男女 (男性 163 名、女性 145 名 平均年齢 31 歳)
適応性、自己重要性、愛、交友、仕事と共同体感覚の相関関係

<アルコール依存症患者対象>

教育レベル、自己概念等と共同体感覚の相関関係

<女性囚人・女性大学職員対象> (SIS と共に)

2つのグループ間の違い

2. SSSI : The Sulliman Scale of Social Interest / 1973 / Sulliman

SSSI では、50 項目の正誤質問に回答するという方法をとっており、その結果から、
共同体感覚尺度

他者に対する関心と信頼の度合い (SSSI-1)

自己への信頼感と世界への楽観の度合い (SSSI-2)

が測定できるとされている。しかしながら、SSSI を使った研究はまだ数が少なく、信頼性について、現在も検証が続けられているところである。

SSSI を使ってこれまで行われた研究には以下のようなものがある。(7 研究)

<大学生・女子大学生対象>

SSSI の信頼性検証

SSSI と他の性格検査との相関による妥当性検証

<精神科外来患者対象>

思考と共同体感覚の相関関係 (含む信頼性検証)

<薬物依存症、アルコール依存症患者対象>

他の性格・人格検査 (MMPI, MCMI-II) と共同体感覚の相関関係

<ボランティア参加者と非参加者対象>

2つのグループ間の違い

3. SIS : The Social Interest Scale / 1975 / Crandall

SIS では、24 組の性格特性のペア項目からどちらか 1 つを強制選択するという方法により共同体感覚を測定する。SIS の結果は、利他主義、信頼、宗教的な信念、年令を重ねること、ボランティア精神に対して肯定的に関連し、極端な回答のスタイル、絶望感、孤独、ナルシズム、不合理的な信念、ストレス、不安、憂鬱、敵意、超常的信念、精神主義に対して、否定的に関連する。その結果、SIS 値が高い人は、低い人に比べ、他人を思いやる気持ちがあり、低い人は高い人に比べ、極端な回答、自己中心的価値観、防衛性が高いと考えられる。この検査は、信頼性・妥当性ともこれまでの研究ですでに検証されている。

SIS を使ってこれまで行われた研究には以下のようなものがある。(25 研究)

<大学生対象>

性格、倫理観、価値観、ストレス、信仰心、家族布置などと共同体感覚の相関関係、男女による違いなど

<高年齢者対象>

年齢、絶望感と共同体感覚の相関関係

<アルコール依存症患者対象>

人格検査 MMPI と共同体感覚の相関関係

<女性囚人・女性大学職員対象> (SII と共に)

2つのグループ間の違い

まとめとして、共同体感覚のこれまでの研究を概観した結果、概ね、共同体感覚の測定値が高い人は、低い人に比べ社会への適応度も高く、逆に測定値が低い人は、高い人に比べより社会への適応度が低いという仮説が証明されたものと考えられる。

3. 今回の調査の目的と方法

今回の研究のもう一つの目的である共同体感覚の測定として、以下の方法によって調査を行った。

今回の調査結果の仮説としては「共同体感覚が高ければ、うつ感や不安感は低い」と考えた。そして、共同体感覚測定には SIS を使用した。日本語版が無かったため、オリジナルの英語版を翻訳して使用することとした。(参照 2)また測定結果の検証のために、すでに「うつ感、不安感」の測定としては信頼性・妥当性が高い「SDS 自己評価式抑うつ性尺度」(*1)と「STAI 状態・特性不安検査」(*2)も受検者に一緒に受けてもらい、その結果を比較した。

*1 「SDS 自己評価式抑うつ性尺度」で測定する「抑うつ性」とは、「気分の落ち込み、空虚感悲しさなどの度合い」

*2 「STAI 状態・特性不安検査」で測定する「状態不安」とは、「検査時の不安感の度合い」、「特

性不安」とは、「不安になりやすい性格傾向の度合い」

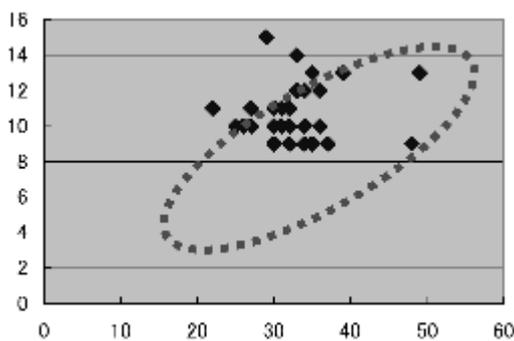
調査の対象者は、2008年9月練成講座に参加されたうちの62名の方である。

<対象者の概要>

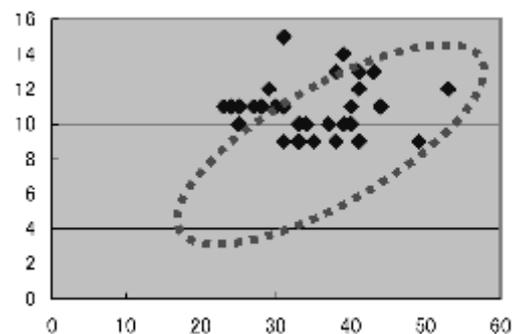
男性 20名 / 女性 42名
平均年齢 50.0歳
アドラー心理学有資格者 48名
アドラー心理学資格保有なし 14名
アドラー心理学学習平均年数 12.0年

4. 調査結果

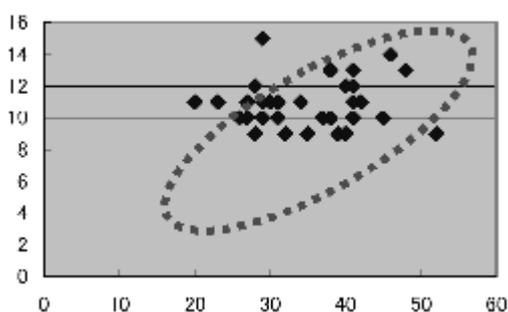
SIS の検査結果を、比較対象の他の検査 (SDS, STAI) の数値との相関を分布図にすると、以下のようなになった。



S I S と S D S の関係



S I S と S T A I 状態不安の関係



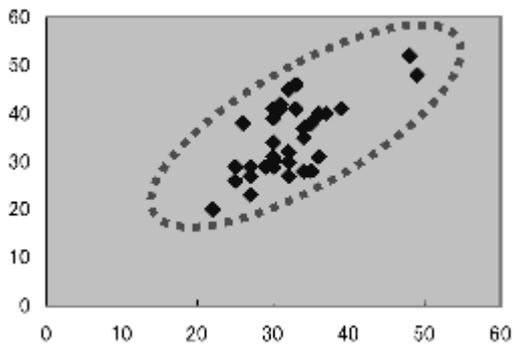
S I S と S T A I 特性不安の関係

この結果から、SIS 値と、SDS 値あるいは STAI 値(特性不安、状態不安とも)の間には、相関関係がないと言わざるを得ない。(普通、相関関係があると見られる場合は、点線のエリアにほとんどの値が入ることになる。)つまり、この調査の仮説である「共同体感覚が高ければ、うつ感や不安感は低い」については、そうとは言えないという結果になった。

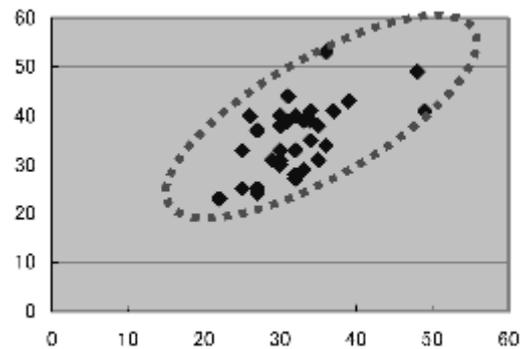
比較参考のため、SDS 値と STAI 値の相関を見ると、以下のようなになる。

先の SIS 値と SDS 値または STAI 値それぞれの相関のグラフと比べてみても、SDS の結果と STAI の結果には、それぞれ明確に相関関係があるものと言える。

そこで今度は、少し切り口を変え、SIS 値が平均値から低い値のグループと高い値のグループに分け、SDS 値、STAI 値の高低に傾向があるか見てみた。



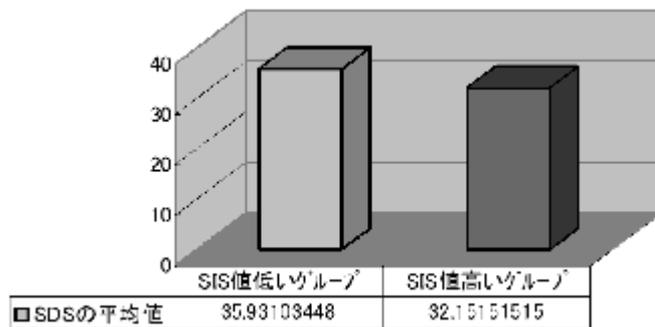
SDSとSTAI状態不安の関係



SDSとSTAI特性不安の関係

すると、それぞれのグループの SDS 平均値（抑うつ性測定値）との間には有意な差がみられた。このことから、うつ傾向については、一応の関連があることが示唆された。

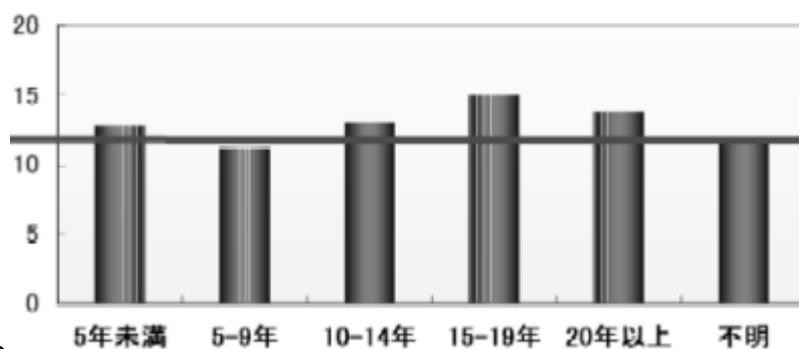
またアドラー心理学の学習期間の長さや、資格の有無によって、SIS 値に傾向が見られるかどうか調べてみた。



S I S 値が平均より高いグループと低いグループの S D S 値の比較

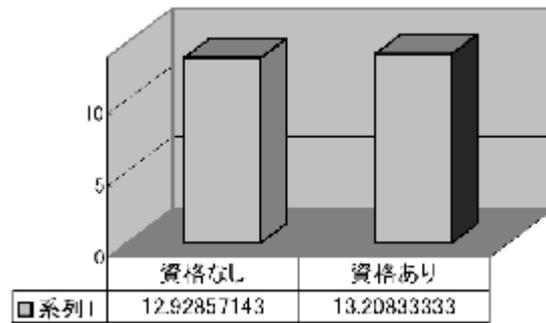
学習年数、資格の有無のいずれの条件も、SIS 平均値には明確な相関関係がみられなかった。

5. 考察



アドラー学習暦の

長さによる S I S 値の比較



アドラー有資格者と無資格者のSIS値の比較

以上の結果を受けて、調査結果をふりかえると、全体としては共同体感覚とうつ感、不安感との明確な相関関係がみられなかった。その原因・理由は、現時点では明確ではない。この調査結果は第25回アドラー心理学会総会の一般演題発表として発表した。その際にフロアからのご意見として今回の調査に対してはサンプルに偏りがあったのではないかとご指摘をいただいた。今回調査にご協力いただいた方々は、練成講座の参加者であるということから、基本的に健康な方々ばかりであったということが考えられる。そのため、共同体感覚とうつ感、不安感との間に明確な関連性が出てこなかったのではないかとと思われる。さらにご指摘をいただいたように、今後、クリニック等にいられている方々に対して検査をしていただき、結果を検討してみたい。

また、アドラー心理学の学習期間や資格の有無と共同体感覚の相関性がみられないのは、共同体感覚が知識の学習からではなく、日々の経験・実践によって育つものであるためではないか、つまり、単に期間が長い、資格を持っているということではなく、学んだ期間が長くても、日々の実践が少なければ共同体感覚は育たず、逆に資格がなく、期間が短かったとしても、日々アドレリアンとしての実践が多ければ、共同体感覚も育っていくと言えるのではないと考えた。(ただ、この考えは推論で、データ上明らかになったものではない。)対象者を変えて同じ調査を行った場合、どのような結果になるのかを検討することによって、今回の結果の理由が明確になるかもしれない。

過去の研究では「ストレスとSIS値」「性格特性とSIS値」「価値観・倫理観・宗教観とSIS値」などの研究はされていたが、「不安感とSIS値」の調査は初めての試みであった。また、SISの日本語版質問紙は今回初めて日本語に翻訳されたものであるため、日本語版としての信頼性、妥当性の検証も必要だと思われる。SISの質問紙の再検討をし、SIS以外の測定用質問紙法(SII、SSSIなど)との比較調査などをしてみる必要があると思われる。

謝辞

今回の調査に際して、SIS、SDS、STAIの検査にご協力くださった皆様方に心より感謝申し上げます。なお、この論文は第25回アドラー心理学会総会において発表したものを主にまとめたものです。総会においては、フロアから多くのアドバイスやコメントをいただき、ありがとうございました。重ねて心より感謝申し上げます。

引用・参考文献

- [1] Crandall, J. E.: *Theory and Measurement of Social Interest - Empirical Tests of Alfred Adler's Concept*, Columbia University Press, New York, 1981.
- [2] Crandall, J. E. and Biaggio, M.K.: *Relations of Two Measures of Social Interest to Ego Defensiveness*, Journal of Individual Psychology, Vol. 40, p.83-p.91, 1984..
- [3] Peterson, T. J. and Douglas L. Epperson, D. L : A Comparison of Two Social Interest Measures with Female Convicts, Journal of Individual Psychology, Vol. 41, p.349-p.353, 1985..
- [4] Fish, R. C. and Mozdierz, G. J.: Validation of the Sulliman Scale of Social Interest with Psychotherapy Outpatients, Journal of Individual Psychology, Vol. 44, No. 3, p.307-p.315, 1988..
- [5] Watkins, C. E.: Measuring Social Interest, Journal of Individual Psychology, Vol. 50, No. 1, p. 69-p.96, 1994.
- [6] Watkins, C. E. and Blazina, C.: Reliability of the Sulliman Scale of Social Interest, Journal of Individual Psychology, Vol. 50, No. 2, p.164-p.165, 1994.
- [7] Watkins, C. E., and Blazina, C.: Validity of the Sulliman Scale of Social Interest, Journal of Individual Psychology, Vol. 50, No. 2, p.166-p.169, 1994.
- [8] Curlette, W.L., Kern, R. M., Gfroerer, K. P., and Whitaker, I. Y.: Comparison of Two Social Interest Assessment Instruments with Implications for Managed Care, Journal of Individual Psychology, Vol. 55, No. 1, p.62-p.71, 1999.
- [9] Manaster, G. J., Cemalcilar, Z., and Knill, M.: Social Interest, the Individual, and Society: Practical and Theoretical Conditions: Journal of Individual Psychology, Vol. 59, No. 2, p.109-p.122, 2003.
- [10] Leak, G.: Clarification of the Link Between Socially Desirable Responding and the Social Interest Index, Journal of Individual Psychology, Vol. 60, No. 1, p.94-p.99, 2004.
- [11] Mozdierz, G. J., Greenblatt, R. L., and Murphy, T. J.: The Measurement and Clinical Use of Social Interest: Validation of the Sulliman Scale of Social Interest on a Sample of Hospitalized Substance Abuse Patients, Journal of Individual Psychology, Vol. 63, No. 2, p.225-p.234, 2007.
- [12] Sweeney, T. J.: *Adlerian Counseling; A Practitioner's Approach Fourth Edition*, Taylor & Francis, 1998.

更新履歴

2013年5月1日 アドレリアン掲載号より転載

<参照1> 43の研究（論文で確認できた分）

No.	Year	Author	SiS	SiI	SSSi	Content
			25	21	7	
1	1981	Mozdzierz, Semyck		x		2つの調査、①238名の男性アルコール依存入院患者、②152名の男性アルコール依存入院患者/Si値と教育レベル、自己概念等との相関
2	1981	Schneider, Reuterfors	x			443名の心理学を学ぶ大学生/男女の違い、一人っ子、兄弟ありの違い
3	1981	Zarski, Bubbenzer, West		x		346名の大学院生/Si値と生活の変化の関係はあまりない。Si値と憂鬱感など気分や感情との相関はあり
4	1981	Zarski, West, Bubbenzer		x		318名の大学院生/SiI値とSi、自己重要性、愛、交友、仕事との相関
5	1982	Crandall	x			3つの調査実施。46名、137名、38名の心理学を学ぶ大学生への調査。Si値と極端な回答との相関
6	1982	Dixon, Stevick		x		121名の大学生/都会暮らしの人と田舎暮らしの人の違い研究。特に違いは見られなかった
7	1982	Leak		x		416名の心理学を学ぶ大学生/Greeverら、Zarskiらの研究結果と同様の結果
8	1982	Leak	x	x		2つの調査、①60名の心理専攻の大学生、②65名の心理学入門を学ぶ大学生/SiI値、SiS値とSDRの関連研究。SiIではなく、SiSにより影響があるという結果
9	1982	Zarski, West, Bubbenzer		x		308名の人/Si値の高さと適応性との相関
10	1983	Rim	x			120名の男性工科短大応募者/Si値と倫理観、価値観との相関
11	1983	Tobacyk	x			60名の心理学を学ぶ大学生/Si値と信仰心、精神志向などとの相関
12	1983	Zarski, Bubbenzer, West		x		308名の人/SiI値と自己重要性、愛、交友、仕事との相関
13	1984	Barkley, Wilborn, Towers		x		43名の高校生/男女バイアスがあることが懸念点としてあった
14	1984	Crandall	x	x		87名の心理学を学ぶ大学生/ストレスとSiI値、SiS値の相関関係
15	1984	Crandall, Biaggio	x	x		98名の心理学を学ぶ大学生/SiI値、SiS値の相関関係、SDRの懸念が浮上
16	1984	Markowski, Greenwood		x		52組の夫婦/結婚生活の状態とSi値の相関
17	1985	Leak, Millard, Perry, Williams	x	x		3つの調査、①88名の心理学を学ぶ大学生、②51名の心理学クラスの学生、③86名の心理学部の学生/SiI値=SiSとSiIをあわせたものを使った性格・思考特性等との相関研究
18	1985	Peterson, Epperson, Hutzell	x	x		36名の女性囚人と36名の女性大学教員のSi値の比較
19	1986	Davidson, Smith, Jensen	x			167名の図書館高校生と134名の一般の大学生との比較
20	1986	Dixon, Willingham, Chandler, McDougall		x		165名の心理学を学ぶ大学生/SiI値と幸福感、ユーモアセンスとの相関
21	1986	Forman, Crandall	x			29名の医学生、26名の精神病院入院患者、17名の尼、94名の大学生/立場？状態？とSi値の相関。一部仮説と合わない結果があった
22	1986	Joubert	x			57名の心理学を学ぶ大学生/Si値がナルシズムと孤独感との相関があることを検証
23	1986	Miller, Denton, Tobacyk	x			38名の老人ホームに暮らす老人/Si値と絶望感との相関
24	1986	Mozdzierz, Greenblatt, Murphy	x		x	64名のアルコール依存入院患者/SiS値とその他の測定ツール(MMPI, PSI等)の相関関係。それほど明確な相関がないことがわかった
25	1987	Hsieh	x			127名のクリスチャンの大学生/信心深く、精神志向の人はSi値が高い
26	1987	Joubert	x			86名の心理学を学ぶ大学生/女性が男性よりSi値が高いこと、ペットを飼っているかどうかによる相関はないことを検証
27	1987	Miller, Smith, Wilkinson, Tobacyk	x			78名のカウンセラートレーニー/Si値とナルシズムとの相関
28	1988	Fakouri, Hafner, Chaney	x			125名のコンサルティングコース専攻の大学院生/核家族出身か大家族出身かとSiS値の相関
29	1988	Fish, Mozdzierz			x	81名の精神外来患者/Siと思考傾向の相関、test-retestの検証
30	1988	Markowski, Everett		x		60名の特別な子を持つ母と、60名の特別ではない子を持つ母の比較。特別な子を持つ母の方がSi値が低い

< 参照1～続き >

No.	Year	Author	SIS	SII	SSSI	Content
31	1988	Meunier, Royce	x			205名の老人ホーム職員と老人/年齢とSI値の相関
32	1988	Mozdzierz, Greenblatt, Murphy	x			64名のアルコール依存入院患者/SSSI値、SIS値とMMPI値との相関
33	1989	Leak, Williams	x	x		2つの調査、①87名の大学生、②103名の女子大学生/SISI値を使って、commitment, control, alienation from work, self, others などとの相関
34	1989	Leak, Williams	x	x		107名の心理学クラスの学生/SI値とcohesion, expressiveness, intellectual-cultural などとの相関
35	1990	Hettman, Jenkins	x		x	60名のボランティア活動をする人と60名のボランティア活動をしていない人とのSI値の違い。前者がSI値が高い結果
36	1990	Leak, Gardner	x	x		59名の心理学を学ぶ大学生/恋愛傾向とSI値の相関
37	1990	Watkins, Hector		x		201名の大学生/SI値と友達や親戚関係の深さとの相関
38	1991	Chaplin, Orlofsky	x			45名の男性アルコール中毒者と45名の一般白人男性との比較
39	1994	Watkins, Blazina			x	80名の心理学を学ぶ大学生/SSSI値のtest-retestの検証
40	1994	Watkins, St. John			x	87名の男子大学生、120名の女子大学生(いずれも心理学を学ぶ学生)/SSSI値とSIの相関性からSSSIの妥当性を検証。Mozdzierzらの研究と同様の結果
41	1999	Curlette, Kern, Gfroerer, Whitaker			x	173名の女子大学生/SSSIとBASIS-AとCRISを使って、SSSIとBSIの信頼性、相関性等についての研究
42	2004	Leak		x		47名の白人大学生/SIIとBIDRを使って、Social Desirable Responding との関連の検証
43	2007	Mozdzierz, Greenblatt, Murphy			x	65名の薬物依存入院患者/SSSIとMCMI-IIを使って、薬物依存患者とSIの関連性を検証

個人特性尺度 (Copywrite 1975, James E. Crandall)

あなたについてお伺いします。

性別： 男性 ・ 女性	年齢： 歳	職業：
アドラー心理学を勉強しはじめてからの年数： 年		
資格(家族コンサルタント ・ カウンセラー ・ 心理療法士 ・ 指導者、 その他(医師などの国家資格 _____) その他(臨床心理士などの外部団体の公認資格 _____)		

以下は個人の特性、特徴をペアで並べたものです。それぞれのペアで、**より当てはまると思われる方**を選んでください。選択する時に、そのペアの中で、どちらの特性の方が、より自分の本来の性格に近いものであるかという視点から選んでください。例えば、最初のペアは「1. 想像力豊かな / 2. 合理的な」ですが、どちらか1つを選ぶとしたら、どちらの方がより当てはまると思えますか？

ペアの横の口(四角)の中に、「1」または「2」を記入してください。

いくつかの特性は2回出てきますが、常に別の特性とのペアになっています。全く同じペアが繰り返し出てくることはありません。必ず全てのペアから、どちらかを選択してください。

私はむしろ・・・

<input type="checkbox"/> 1. 想像力が豊か 2. 合理的である	<input type="checkbox"/> 1. きちんとしている 2. 論理的である
<input type="checkbox"/> 1. 人の役に立つ 2. 機転が利く	<input type="checkbox"/> 1. 許容的である 2. 穏やかである
<input type="checkbox"/> 1. きちんとしている 2. 思いやりがある	<input type="checkbox"/> 1. 効率的である 2. 礼儀正しい
<input type="checkbox"/> 1. 良識がある 2. 効率がよい	<input type="checkbox"/> 1. 実地的である 2. 自信がある
<input type="checkbox"/> 1. 知的である 2. 情け深い	<input type="checkbox"/> 1. 用心深い 2. 協力的である
<input type="checkbox"/> 1. 自信を持っている 2. 野心的である	<input type="checkbox"/> 1. 想像力が豊か 2. 人の役に立つ
<input type="checkbox"/> 1. 礼儀正しい 2. 独創的である	<input type="checkbox"/> 1. 現実的である 2. 道徳的である
<input type="checkbox"/> 1. 創造的である 2. 分別がある	<input type="checkbox"/> 1. 人気がある 2. 良心的である
<input type="checkbox"/> 1. 寛大である 2. 個人主義的である	<input type="checkbox"/> 1. 情け深い 2. 賢明である
<input type="checkbox"/> 1. 責任感が強い 2. 好感が持てる	<input type="checkbox"/> 1. 道理をわきまえている 2. 機転が利く
<input type="checkbox"/> 1. 有能である 2. 忍耐強い	<input type="checkbox"/> 1. 思いやりがある 2. 個人主義的である
<input type="checkbox"/> 1. 信頼できる 2. 賢明である	<input type="checkbox"/> 1. 野心的である 2. 我慢強い